

敬老会で活躍しました！

9月19日（月）、河内小学校体育館で河内地区敬老会が行われました。

その際、河内小学校児童を代表して、2年の谷本彩華さん、4年の楠木恵美さん、6年の藤正彩花さんが、おじいさんやおばあさんへの素直な思いを書いた作文を、はっきりとした声で堂々と発表することができました。アトラクションでは、河内児童館を利用している子どもたちが、フラダンスやソーランを一生懸命披露しました。また、体育館入口近くに設けられたお茶席で、和服を着て、お茶の接待に努める児童もいました。

基礎・基本定着状況調査結果について

6月14日（火）に広島県の小学校5年生を対象として実施された基礎・基本定着状況調査の結果が公表され、河内小学校の結果について分析するとともに、今後の学校全体の取組について検討しました。調査は、4年生までの国語科と算数科の教科学習と、生活と学習に関する意識・実態についてです。

1 国語科

4年生の漢字の読みや、話を聞いて要点をつかむことはよくできていました。ローマ字については、読みはできていましたが書くことが難しい児童がいました。また、主語・述語の関係が十分に理解できていない児童もいました。話を読んで、場面の移り変わりや情景を想像する問題では、記号や番号で答えるものはできていましたが、文を書いて答えるのに苦手な児童がいました。書く内容を文から見つけ、抜き出して書く問題はよくできていましたが、考えを明確にして書くことが難しい児童がいました。

これらを踏まえ、漢字やローマ字の読み書きについては、繰り返し復習していきたいとします。主語・述語などの言葉のきまりの学習は、5年生のみならず各学年でより丁寧な指導を積み重ねたいとします。また、書く機会を増やすとともに、段落構成を考えて文を書かせたり、段落に注意して推敲させたりといった指導の工夫を行いたいとします。

2 算数科

整数の四則計算がとてもよくできていました。（ ）を用いた計算や棒グラフの読み取りもよく理解できていました。

「かさ」の単位、面積の単位などの「量と測定」領域について理解が不十分な児童がみられました。直角三角形の作図が定着していない児童もいました。

これらを踏まえ、長さ・かさ・面積・重さといった基本的な単位の大きさについて、およその大きさが分かるように日常生活と関連づけて指導したいとします。これまで同様に、整数の四則計算の力をつけていくとともに、小数や分数についても計算力をつけていきたいとします。数量や図形についての基本的事項の定着や、それぞれの学年で学習す

る用語についての理解の徹底も図りたいと思います。

3 生活と学習に関する意識・実態

学校に行くのが楽しい・やや楽しい児童が100%，朝食を食べてくる児童も100%でした。

読書活動をはじめとして，学習習慣，表現力，自己表現・自己効力感に関する項目がや低い傾向があります。理由を考えたり，理由をつけて話したりすることや，相手が納得するように，自分の気持ちを相手に伝えることを苦手になっている児童が少なからずいます。

自分から積極的に学習に取り組もうとする姿勢がやや不足しています。「将来，仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強している」と答えた児童が90%以上もいるのに，「やりなさいと言われるから勉強していると」答えた児童が3分の2近くいました。「努力すれば，自分もたいていのことはできる」と考える児童が90%以上いますが，「自分の良さを認めることができる」児童は3分の2を下回り，「自分がまわりの人から認められていると思う」児童は半数をやや上回る程度にとどまりました。

これらを踏まえ，引き続き，「朝の読書タイム」や国語科の授業，図書ボランティアの皆さんによる読み聞かせなどをとおして，読書に親しませていきたいと思います。また，読書への興味・関心を高めるような，掲示物の工夫などにも取り組みたいと考えています。

ペアやグループによる協同学習をとおして，コミュニケーションの力を高め，互いに聞き合い，話し合い，共感し合える学級づくりを進めていきたいと思います。

やる気を引き出し意欲を高めるために，達成感を味わわせたり，認めたりほめたりする場面をもっと増やしていきたいと思います。

本の読み聞かせをしてもらっています！

河内小学校では，図書ボランティアの河村千津美さん，垣谷知里さん，友池恭子さん，藤井千恵さんに本の読み聞かせをしてもらっています。

「朝の読書タイム」を活用して，主に1年から3年を対象に行ってもらっており，子どもたちはとても楽しみにしています。

